

○13番(川上晋平)登壇 私は、新政会を代表いたしまして、本会議に提案されております平成13年度予算案、条例案並びに一般議案に対して賛成の意を表し、討論を行うものであります。

21世紀が幕をあげ、新しい時代が始まりましたが、私は、今世紀が人の世紀そして環境の世紀になるという予感を強く抱いております。さまざまな分野でポスターレス化、グローバル化が進展し、情報通信技術の発達と相まって、人と人との交流やコミュニケーションの増大は、人類史上かつて経験したことのない速度で進んでいくものと考えられます。その大きな変化の中で私たちが忘れてならないことは、人間一人一人の重みであります。情報量の多さや技術の高さだけにとらわれることなく、人と人との触れ合いや、それを通じて得られる感動を一人一人が実感できる社会をつくるということが重要であると考えます。洪水のように世の中にあふれ出る情報や技術に振り回されることなく、人の心を大事にすることが大切だと思います。少年犯罪、児童虐待、いじめなどの多発に見られるように、21世紀を担っているべき世代の心が荒れてきています。人が互いに支え合って生き生きと暮らす社会を築くために、本当に必要な情報や技術は何かを真剣に考える必要があります。また、21世紀は環境の世紀と言われています。世界的に環境問題に対する関心が高まってきておりますが、私たち一人一人について見れば、まだまだといった感があります。自然環境も資源も無尽蔵であるかのように、まちは多種多量の商品があふれ、それを私たちは多量に消費し、多量にごみとして廃棄しているのです。自分ひとりぐらいいいだろうとか、自分たちが生きている間だけよければいいといった考えが見え隠れしているように思えます。私たちは、身近な生活環境から地球環境まで幅広い意識を持って、一人一人ができることに取り組む必要があります。次の時代に美しい地球を引き継ぐために、私たちは最大限の努力をしなければならぬと考えます。このように、21世紀は人の世紀、環境の世紀と呼ぶにふさわしい時代になるものと考えますが、我が福岡市の都市づくりにおきましても、これらの視点を基本認識としてしっかりと持って、さまざまな施策に取り組んでいくことが重要であると考えます。

また、少子・高齢社会の進展は新たな市民ニーズを生み出しつつあり、これまで以上にきめの細かい行政サービスや地域施策が必要になってきておりますし、当然ながら、水や交通など市民の暮らしを支える生活基盤の整備も重要であります。このように多くの課題を抱える中で、本市は厳しい財政状況にありますが、今こそしっかりと目途をたてた施策の選択を行い、真に必要な政策を積極的に実践していくことが、人々が生き生きと生きることができ、明るく豊かな未来をつくりつづけるものと考えます。そこで、以下、重要と考えます幾つかの事項につきまして、意見と要望を述べさせていただきます。

まず、子供に関する施策の推進についてであります。

子供たちは、これからの時代の福岡を、日本を、そして世界を支えていきます。子供たちが夢を描き、夢に向かって頑張れる環境をつくっていくことが私たちの役目であると考えます。グローバル化やIT革命など激しい社会変化の中で、豊かな心を持ち、助け合いながら、新しい課題に対して勇気を持って解決していく、そのような人づくりを推進していかなければなりません。昨年7月に策定された福岡市教育改革プログラムの推進や体の健康、心の健康の支援、子育ての支援、虐待防止など、教育、保健、福祉等の施策が一体となった総合的な取り組みが進められることを要望いたします。また、2002年6月に本市で開催されるロボカップ世界大会は、科学技術の発展を目指した意義あるイベントであると同時に、子供たちの夢をはぐくむ催しであると考えます。多くの子供たちが参加できる大会となるよう計画されることを要望いたします。

次に、福祉施策の推進についてであります。

高齢社会の進展の中で、私たちは、高齢者や障害者を初め、市民一人一人が健康で安心して暮らせるまち、支え合いと自立がうまくかみ合ったまちを実現しなくてはなりません。高齢者が生きがいと尊厳を持って、自立し、生き生きと生活を営むことができるよう介護サービスの充実を図るとともに、生きがいづくりや社会参加活動への支援が必要であります。また、障害者についても、住みなれた地域で、自立し、安心して生活していけるよう、ハード、ソフト両面にわたる施策の充実を図り、障害に応じたサービスを提供していく必要があります。

以上、福祉施策につきましては、高齢者や障害者の意見を十分に踏まえて積極的な推進を要望いたします。

次に、環境行政の推進についてであります。

福岡市は、大都市の中でも自然環境に恵まれた都市であり、本市の21世紀の都市づくりのテーマは環境共生都市であると考えます。環境を守りつつ成長する都市のお手本となるよう総合的な施策の推進が求められます。循環型社会の構築を目指して、ごみ減量やリサイクル施策を初め、地球温暖化対策、環境ホルモン汚染対策、ダイオキシン対策などを積極的に推進するとともに、市民一人一人の意識を高めていく施策を展開されるよう要望いたします。

次に、行財政改革の推進についてであります。

少子・高齢社会の進展に伴い、行政需要の増大は避けられないものであり、行財政の改革は喫緊の課題であります。これからの市政においては、最小の経費で最大の効果を上げるという行動原理が重要であり、限られた財政資源を有効に活用し、市民へより大きな成果を還元していくことが必要であります。成果重視、成果志向の行政へ転換していくためには、成果を評価する仕組みが必要であり、事務事業評価などの行政評価システムの構築がぜひとも必要と考えます。また、行政組織につきましても、効率的な組織運営に積極的に取り組み、民間の活用や外団体の事業経営の見直しなどを行うとともに、市民にとって身近な総合行政組織である区役所の機能強化及び市役所職員一人一人が市民ニーズの把握に努め業務に工夫をされる環境づくりに取り組んでいけることを要望いたします。

次に、交通体系整備とまちづくりの推進についてであります。

交通問題は、かねてより本市の重要な課題であり、これまで地下鉄や都市高速道路を初めとする幹線道路の整備など積極的に取り組まれてきたところでありますが、西南部地域や東部地域におきましては、都市計画道路が未整備で、日常的に渋滞が発生している地区が見受けられます。今後の都市交通体系の整備につきましては、鉄道や道路が相互に連携した交通体系とすべきであり、西南部地域におきましては、地下鉄3号線、東部地域におきましてはJR鹿児島本線や西鉄宮地岳線などを軸として、これらに至るアクセス道路やバス路線、及び駅前広場、駐輪場、駐車場などの交通結節施設の整備を効率的に行っていくことが必要であると考えます。また、鉄道や道路の整備とあわせて周辺のまちづくりを推進し、計画的な市街地形成を図ることが重要であります。交通体系の整備並びにまちづくりの推進は、市民生活の上からも、また他の都市や地域から来訪される方にとっても、より良いサービスを提供する上で重要であり、さらには、本市の経済活動を支えるためにも必要不可欠であります。今後とも、積極的な取り組みがなされますよう要望いたします。

次に、交流都市としての魅力を高める施策の推進についてであります。

本市は、朝鮮半島や中国大陸に近いという地理的条件に恵まれ、古くから大陸との交流の窓口として発展してきた都市であります。特に、中世の博多のまちは、対外貿易の拠点としてさまざまな人と文化が行き交う国際交流都市でありましたし、現在も、よかトピアやユニバーシアード大会の開催、アジア太平洋子ども会議やアジアマンスの継続的な実施などに取り組まれており、交流都市としての血が引き継がれております。21世紀という新しい時代に入りましたが、今世紀においても福岡市のアイデンティティーは、やはり交流都市であると考えます。多くの方が訪れ、さまざまな出会いや触れ合いを通じて新しい文化が生まれる、そのような都市であることが、福岡市が九州やアジア、そして世界に貢献する道であると考えます。本市は、人口130万人を超える大都市であるにもかかわらず、大変豊かな自然を有して

おり、また、長い歴史の中ではぐくまれた多様な文化が今も息づいております。これら都市的要素、自然、歴史、文化はどれも本市の魅力であり、貴重な資源であります。そして市民気質としてもホスピタリーの心が高い土地柄であります。交流都市として、さらに魅力を高めていくためには、このような本市の持つさまざまな資源を最大限に生かす施策が必要であります。観光・コンベンション施策や国際交流基盤の整備、そして世界水泳福岡2001を初めとする多様な国際交流事業など総合的に取り組まれることを要望いたします。

以上、幾つかの点につきまして、私ども新政会の意見要望を述べてまいりましたが、市長初め当局におかれましては、これらの要望をぜひとも踏まえていただき、諸施策に積極的に取り組んでいかれることを強く求めまして賛成討論を終わります。御清聴ありがとうございました。